

## 適切な体育館の床メンテナンスを

### ミズノが「GRIPメンテナンスクリーナーシリーズ」を販売

協力会社のミズノは、体育館床面の維持・管理ができる「GRIP メンテナンスクリーナーシリーズ」をラインナップ展開しています。専門知識がなくても、適切なメンテナンス作業を自分たちで完結できる商品です。

安全性、高性能、低コスト、簡単、抗菌効果の5つの要素を兼ね備えた「GRIP メンテナンスクリーナーシリーズ」。「NONSLIP」は床面の性能を回復し、スポーツに適した正しい滑り抵抗値に戻します。「GRIP」は床面の汚れを除去し、性能を維持する商品で、松やなどにも除去することができます。用途に応じたメンテナンス剤をお選びください。

使い方は、専用モップとマイクロファイバークロスに各種クリーナーを適量含ませ、体育館床を拭くだけです。事前の清掃は必要ありません。

成分には床板の劣化を進ませる水分やワックスを一切

含まず、塗膜を作らないのが特徴です。床板が劣化すると、割れやささくれ、はがれ落ちた床板の一部が身体に刺さって怪我をすることにもつながります。実際に複数の事故が発生したことから、文部科学省は2017年、水拭きやワックスがけを禁止する通達を出しました。さらに、化学物質によって体調不良を引き起こすシックスクールにも配慮し、食品衛生法の定める有害物質も一切含んでいません。

ミズノでは、このようなメンテナンス剤の取り扱い以外に、「メンテナンスパッケージ」というオリジナルサービスも販売しています。専門スタッフが学校の体育館を訪問し、フロアの状態を診断。正しいメンテナンスや必要な修繕など、施設を長く使うことを目的とした診断報告書を作成します。「メンテナンスパッケージ」は学校体育館1か所につき60000円(税抜)、交通費が別途



㊤「NONSLIP」(18L缶)

㊦マイクロファイバークロスをジムモップに装着したときのイメージ

が必要です。

価格は「NONSLIP」(18L缶)が58000円(税抜)、「GLIP」(同)が48000円(税抜)。効率よく作業ができる専用のジムモップは1本48000円(税抜)で、繰り返し使えるマイクロファイバークロスは1枚7000円(税抜)です。問い合わせはミズノ(フリーダイヤル0120-140336)まで。

## 5歳のぼくも「困っている人を助けたい」

### ベルマークの仕分けボランティアに初挑戦

「5才の息子なのですが、仕分けボランティアに参加できますか？」

財団ホームページのボランティア募集記事を読んだ女性から、今年6月に問い合わせがありました。幼稚園年長の男の子が、興味を持っているというのです。仕分けボランティアは、財団に寄贈されたマークを会社・点数別に仕分けて集計する活動で、年齢を問わず参加できます。とはいうものの、5才は過去最年少。どのような理由があって申し込んでくれたのか、お話を聞きました。

参加を希望したのは、幼稚園に通う春木落生人くん。お母さんによると、自分の身の回りのことをほとんど一人で出来るようになった落生人くんは、最近おうちのお手伝いを積極的にしてくれるそうです。



同時に芽生えてきたのが、「人の役に立ちたい」という思いです。「どうしたら病気の人を助けてあげられるのかな」「あの人困っているんじゃないかな」と他人を思いやる気持ちが強くなってきました。

お母さんはその思いの実現をサポートしたいと、5才でも参加できるボランティアをインターネットで検索しました。そして、たどり着いたのがベルマークでした。

仕分けを始める前、お母さんは「みんなが一生懸命集めた大切なもの。お金と一緒に、たくさん集めるとボールになったり、ピアノになったりするんだよ」と落生人くんに伝えました。マーク一枚一枚の重みを理解したうえで、お母さん、お父さんと協力して取り組みました。作業はスイスイと滞りなく進んだそうで、後日、財団に4089.6点分のベルマークが戻ってきました。今後もボランティアを続けたいという嬉しい一言もありました。

翌月、2回目のボランティアを依頼しました。1回目よりもたくさんの枚数をお願いしましたが、集中力も作業スピードも上がり、たった2日で仕分けを終えました。



慣れた手つきでマークを仕分ける春木落生人くん(お母さん提供)

合計点数は11660.2点と、1回目の3倍近くを整理しました。

作業中は、マークの色やデザインを見るのが楽しかったといいます。お気に入りには湖池屋(ベルマーク番号77)の「カラムーチョ」のマーク。協賛会社の番号も覚え、好きなベルマーク付き商品は「04番(日本水産)の『大きな大きな焼きおにぎり』!」と教えてくれました。

ボランティア活動の入り口となるのが出来るのがベルマーク仕分け。5才の落生人くんの思いがベルマークを通じて実現できたことを大変嬉しく思いました。

## 東北の2校に合計20万点を寄贈

### ジャックスから矢巾町立煙山小、むつ市立大平小へ

大手信販会社のジャックス(本部・東京都渋谷区)は、役職員で集めたベルマークあわせて20万点を、岩手県矢巾町立煙山小学校(阿部真由子校長、児童655人)と青森県むつ市立大平小学校(佐藤智義校長、児童437人)へ贈りました。

ジャックスは、全社員が参加できる身近な社会貢献活動として、2015年からベルマーク収集に取り組んでいます。これまでに創業の地である函館の学校、地震・豪雨の被災校、特別支援学校などに寄贈してきました。2021年からは、地域社会へさらに貢献しようと、全国にある営業所と協力し、各地域の学校へ寄贈する取り組みを始めています。今回は、函館の次に東北地方へ営業所を出店したことから、東北の2校を選びました。

贈呈式はそれぞれの学校で開かれました。9月9日は煙山小で、ジャックス盛岡支店社員から阿部校長とベルマーク委

員長の境田真帆さん(6年)へ目録が渡されました。煙山小は、吹奏楽部が今年度の全国大会に出場するほどの強豪校です。「楽器の購入などに役立てていただければ」とジャックス社員は話します。

ベルマーク運動も盛んで、月1回、ベルマークを入れる封筒を回収し、ベルマーク委員会の子どもたちが協賛会社ごとに仕分けします。校内放送やポスターで回収の呼びかけもしているそうです。境



左から6年の境田真帆さん、阿部真由子校長、ジャックス盛岡支店社員

田さんは「私たちのために、一生懸命集めていただいたのだと思うと、とてもうれいです。大切にに使わせていただきました」と感謝の言葉をジャックス社員に伝えました。

10月25日には大平小で、ジャックス青森支店長から佐藤校長へ目録が手渡されました。大平小は、青森支店社員のお子さんが通っている学校で、ベルマーク運動に参加しています。これまでにベルマークを340万点以上集め、ミシンなどを購入しています。インク・トナーカートリッジは地域の方からの協力があるそうです。しかしながら、コロナ禍で2年間、回収・集計作業が中止になっているといいます。

今回の寄贈では、掃除用具を入れるロッカーを買いました。ベルマークを担当する環境委員会が、環境に適した備品を購入したいとの思いから決めたそうで

す。「ロッカーがだいぶ古くなり、新しく交換したいと思っていたので、たいへん助かりました」と佐藤校長は話しました。

ジャックス盛岡支店の担当者は、「とても喜んでいただけて、非常にうれしい」。青森支店の担当者は、「ベルマークが学用品の購入に活用されているのを目の当たりにしてうれしい」と感想を教えてくださいました。



目録を手にとる佐藤智義校長(左)と青森支店社員